

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年12月3日

【評価実施概要】

事業所番号	1171000175
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	八潮ケアセンターそよ風
所在地	340-0816 埼玉県八潮市中央3-1-12 (電話) 048-999-7566

	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年11月21日

【情報提供票より】(平成19年11月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年1月4日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 9 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	11.85人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋木造造り 2階建ての2階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	25,000円+実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,400円			

(4) 利用者の概要(11月6日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.7 歳	最低	60 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八潮中央総合病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成14年1月に開設した当ホームは、市の中心部にあり、グループホーム、デイサービス、居宅介護支援事業所など多くの施設を設置している株式会社が運営するグループホームである。当ホームは「ゆったりと楽しく当たり前の暮らしを」を理念とし、認知症の介護に取り組んでいる。職員は、居心地の良い環境づくりと利用者個々のニーズへの対応をすすめ、法人のネットワークによる質の向上に努めている。利用者一人ひとりに合ったケアを工夫し、利用者が安心した人間関係の中で暮らせるよう支援を行っており、ケアに対する職員の思いが伝わるグループホームである。今後も外部評価を活用し、さらなるサービスの質の向上を期待したい。

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価については、管理者等は把握しているが、職員には取り組み方法等が十分理解されていなかったため、評価結果をもとに職員で改善課題の話し合いや改善計画の作成はなされず、評価を日々のケアに反映するには至らなかった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は主に管理者が作成しており、職員全員による取り組みには至っていない。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、利用者家族、民生委員、地域包括支援センター職員、事業者代表などの参加によって開催されている。会議のメンバーをいろいろな行事に招待し、グループホームの理解を深めてもらっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>利用者の心身状態の変化は、電話やメールで連絡したり、家族来訪時に報告している。また、毎月「そよ風通信」を発行して家族等に送付し、暮らしづりを知らせている。また、困難な問題が出た場合は、家族等を交えた話し合いを行い、検討している。家族等が意見や苦情を言いやすい関係づくりに努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所の人とは、気軽に挨拶を交わし合う関係が築けている。また、今後自治会の加入や地域の行事への参加、さらにはホームの行事への誘いなど交流をすすめ、ホームが地域の人が気軽に立ち寄れる場所になるように努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったりと楽しく当たり前の生活」をホームの基本理念としており、「地域でありのままに安心して暮らしつつけること」を運営の方針としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は、本人・家族等の希望を入居時に聞き取り、利用者が日々楽しく過ごすことができるよう職員間で検討し、理念の具現化に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の方とは、気軽に挨拶を交わし合う関係が築けている。ホームの行事について、地域の方々に案内を出して、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価及び自己評価の意義について職員全員の理解は得られていない。		管理者等は、職員全員に外部評価及び自己評価の意義やねらいについて分かりやすく伝え、評価の結果を職員全員で共有し、日々のケアに活用していけるようさらなる取り組みを期待する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム設立時より運営推進会議を開催し、会議録は回覧している。平成19年10月の地域包括支援センター開設により、会議には、地域包括支援センター職員、利用者、家族、民生委員、事業者代表等が参加し、ホームの取り組みの内容や課題などの検討を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者へは運営推進会議議事録等を提出するなど、市とは随時連絡報告を行う関係が築けている。また、市の社会福祉協議会とは、密接に連携し、ボランティアの受け入れなど相互に協力できる体制がある。研修、意見交流等もなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「そよ風通信」を作成し、個別に送付している。体調不良など本人に変化がみられた時には、家族等に電話連絡やメール等で様子を報告している。金銭に関しては、小遣いを預かっているため、毎月家族に領収書等を送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方が面会に来られた時、内容により直接話し合う機会を設けている。家族の意見などは、会議等で話し合い運営に活かしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者にとって顔なじみの職員の支援が継続して受けられるように配慮し、外部からの職員異動は最小限にするなどしている。また、職員が意見を述べやすい環境づくりをして、職員の意見を最大限運営に生かすことで離職防止に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内で職員研修計画がある。日々のミーティングのほか、月1回の会議で管理者、職員各々に必要な研修を実施している。事業所外で研修の機会をつくり、研修後は職員全員で共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員ともに社内のグループホーム職員と交流する機会は多いが、他法人のグループホームと交流する機会が少ない。		他法人のグループホームなどと学習や交流を持つことにより、サービスの質の向上を図ることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人の気持ちを大事にして、ホームへの見学やお試し入居など、本人が納得した上で入居できるよう配慮している。本人の気持ちを考え、家族等とも相談しながら馴染んでいけるように努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は日々の生活の中で、利用者から暮らしの知恵を教えてもらうこともある。本人の趣味をイベント等で生かすなどお互いに支えあう関係づくりに努めている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常のコミュニケーションをとおして、希望や思いを把握している。希望や思いの聴取が困難な場合は、家族等に本人に関する情報を収集している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族等の意見や思いを把握したうえで、本人本位の具体的な介護計画を作成している。カンファレンスの中で出た内容等を家族とも話し合い、家族から出た意見はケアプランに反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々のカンファレンスや月1回の会議で計画の見直しを話し合っている。利用者の状態が変化した時には随時介護計画の変更を行っている。また、介護計画の変更の際には、内容を申し送りのときに話し、職員間で共有している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人のデイサービスの送迎車が空いているときは、ドライブ等に出かけるなど、利用者の希望に応じた外出支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の協力的な医師がかかりつけ医となり、月2回の訪問診療が行われ、本人及び家族の了解も得ている。その他、病状により適切な病院を受診できるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に聞き取りを行い、本人や家族の意向を把握している。状況に応じてかかりつけ医と家族で話し合い、重度化や終末期に関する具体的な方針を決め、職員全員で支援していく姿勢がある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、声かけなど利用者の対応について会議や日々の申し送り確認している。日常的に使用する記録または書類等は、鍵のかかる書庫で管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりの生活リズムや希望を把握し、その希望に向けた支援をしている。買物に行きたい人に対しては、職員が同行してホームの食材の買物をしてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食のメニューは選択することができる。また、利用者の状況によりおかゆやきざみ食など食事形態を変えている。食器の片付けなどについても、個々に声かけし本人のできる範囲でもらうようにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後を入浴時間としており、事前に個々の希望を聞き取り、一人ひとりがゆっくりと入浴できるように支援している。その他、身体が汚れてしまった場合なども適宜に入浴できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内の行事や、ボランティアの訪問による囲碁、歌など、一人ひとりが楽しめるように支援している。利用者それぞれの役割や楽しみ、気晴らしなどができるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外出できるように、食材の買い物や散歩等の支援をしている。近くの大型店舗の喫茶店へお茶を飲みに行ったり、日帰りでの外出等も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけないケアを心がけているが、ホームの立地が交通量の激しい場所にある等の理由により、現在、ホームの玄関などを施錠している。家族等には施錠について説明し、理解を得ている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導、協力により、消火器の使い方や避難方法など避難訓練を年2回実施している。また、ホームの防火管理者を中心にして自主点検も行っている。しかし、地域住民との協力体制は不十分である。		非常事態時に地域の人々の協力が得られるように、日ごろから地域住民との話し合いを行うことも期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用して、利用者個々の日々の食事摂取量や水分量などについて、通常と変化がないか常時確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとした食堂にはテレビ、ソファなどが置かれ、思い思いの時間を過ごすことができる。また、手作りの飾り付けは、季節感がある。整理整頓がなされ、清潔感があり、居心地の良い生活空間づくりの工夫がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたものが持ち込まれているなど利用者が安心して過ごせるように配慮されている。居室のドアには、家族の方と写した写真を飾ったり、仏壇を持ち込んでいる人がいるなど、利用者の一人ひとりの思いが感じられる居室づくりを工夫している。		